

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	IT 対応建築生産システム構築研究小委員会	主 査 名：上之藺隆志
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会(組積工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	近年、IT 技術は飛躍的に進歩し、建築生産の場においてもその利用が進められている。しかしながら、建築生産において IT 技術を有効に活用するためには建築生産全体を見渡したシステムの構築が必要である。ここでは、工業製品の組合せで躯体を構築するメーソソリーをモデルとし、IT 対応型生産システムの構築について検討する。	
委員構成 (委員名(所属))	上之藺隆志(国総研) 馬場明生(山口大学) 千歩修(北海道大学) 守明子(名古屋工業大学) 根井浩、長谷川直司(国総研) 高橋和雄(太陽セメント) 眞方山美穂(建研)	
設置 WG (WG 名: 目的)	無し	
2003 年度予算	90,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会開催：5 回(5/16、9/4、11/21、1/23、3/29)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT 技術の活用を前提としたメーソソリー構法による建築生産システムを構築するため、将来型の生産システムの想定、システムを動かすために必要な情報、ならびにシステムを動かすことによって新たに作り出される情報の整理を行った。 ・ GDB(ジェネラルデータベース)と PDB(プロジェクトデータベース)の内容・構造・有効利用方法等の基本構想を検討した。 ・ これにより、これまでの研究成果や、部品・部材等の製品情報が体系的に整理され、メーソソリー構法による建築生産の効率化が図られる。 ・ ホームページでの公開の予定なし。
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT 技術の活用を前提としたメーソソリー構法に対する新しい生産システム構築のための概念を整理することができた。これにより、目標は達成できたと評価する。 ・ IT 技術の有効活用を考慮した情報(ジェネラルデータベースとプロジェクトデータベース)の内容・構造をより具体的に検討する必要がある。
その他評価すべき事項	